

梅毒急増中！予防と早期発見が重要

保健管理センター 教授

工藤 欣邦

近年、全国的に梅毒の感染者が急増しています。大分県においても 2024 年は、現在の方法で統計を取り始めた 1999 年以降最多となっています。

●梅毒とは

梅毒は、梅毒トレポネーマという細菌により引き起こされる感染症で、主に性的接触により感染します。早期に発見して治療すれば完治させることができますが、発見が遅れると心臓や脳に重大な合併症を引き起こし、命に関わることもあります。

●梅毒の症状

第 1 期（感染後 1 か月）：感染した部位（陰部、肛門、口唇など）にしこりができたり、股の付け根のリンパ節が腫れたりします。治療しなくても症状が自然と軽快することが多いため、発見が遅れるケースも少なくありません。ただし、体内には病原体が潜んでいるので、性的な接触で他人に感染させる危険性があります。

第 2 期（感染後 1～3 か月）：無治療で 3 か月ほど経過すると、手のひらや足の裏、からだ全体にバラの花に似た「バラ疹」という発疹が出現します。この発疹も自然と消えることがあるため、治療の機会を失ってしまう可能性があります。

晩期梅毒（感染後数年）：皮膚や筋肉、骨などにゴムのようなゴム腫という腫瘍が発生します。また、心臓、血管、脳に病変が生じて、最悪の場合、死に至る可能性があります。

●検査法

医師による診察と、血液検査（抗体検査）で診断します。ただし、感染して最初の数週間は、陽性に出ないことがあるため、感染の機会があってから約 4 週間以上において検査を受ける必要があります。大分県内では保健所において、エイズの検査などとあわせて梅毒の検査を無料・匿名で受けることができます。

●治療

ペニシリン系などの抗菌薬にて完治させることができます。早めに医療機関を受診し、パートナーと一緒に検査や治療を受けることが重要です。

●予防法

あらゆる性行為の際には必ずコンドームを使用し、不特定多数との性交渉を控えましょう。パートナーが梅毒に感染していることが判明した場合は、治療が終了するまでは性行為を控えてください。